

## 刺激が多く、将来について真剣に向き合う契機となったインターンシップを終えて

2024年9月2日～9月6日のうち9月4日を除く4日間、総務省東海総合通信局のインターンシップに参加した。公務員と民間との間で志望先に迷いがある中で、このインターンシップをホームページで見つけた。インターンシップに応募するまで東海総合通信局の名前を聞いたことが無く、名前を知った後も業務内容をイメージするのは難しかった。そこで単に業務内容を知るだけでなく、主体的に体験することさらに職場の雰囲気を肌で感じることを目的とし、本インターンシップに参加した。

はじめに総務省東海総合通信局とは、ICTによって人々の豊かな暮らしを支えるため、日常の地域づくりや通信・放送サービス、電波監理だけでなく、災害時の情報伝達に関しても重要な役割を持つ組織である。岐阜県・静岡県・愛知県及び三重県を管轄区域としている。

1日目は若手職員の方々との座談会から始まり、航空海上課・陸上課による各々が担当する無線局の許認可等の説明、監視調査課・陸上課による各種無線機器の使用体験、陸上課による電波法令等に基づく審査体験、防災対策推進室による災害時に活用する機器の説明を受けた。

初日で非常に緊張していたが、想像していた固い国家公務員の雰囲気とは異なり、職員の方々の物腰の柔らかさや関係性の良さを節々に感じリラックスすることが出来た。また実際の職場も見学し、少人数で互いに協力し合いながら業務を行う様子を見る事が出来た。

2日目は電波利用企画課による電波の効率的な利用に関する取組紹介、総合通信調整官・NICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)によるICT関連研究の産学官連携についての概要説明、さらに実際にNICTの支援を受け研究開発が行われた名古屋大学病院への訪問を行った。

2日目で特に印象に残ったのはNICTの幅広い活動内容である。自らが研究主体となるだけでなく、民間や大学への研究支援、さらには日本標準時の制定などその内容は多岐に及ぶ。今回は概要説明だけではなく、実際に支援を受け研究開発を行った場に足を運び、話を聞くことが出来た。単にペーパーレス化すれば良いだけではなく新しい価値を生み出す必要のあるDX化の難しさ、何よりこのようなDX化を根底から支えているNICTの資金援助の重要性を感じ、1つの組織では不可能なことを可能にしている産学官連携に関心を持った。

3日目は地域情報化をテーマに、スマートシティを推進する岡崎市役所への訪問、情報通信振興課による地域情報化の取組説明、地域課題解決をテーマにしたアイデアソンを行った。岡崎市では職員の方々とまちづくりを中心に意見交流を行い、全国でも有数である岡崎市の挑戦的なスマートシティへの取組を学ぶことが出来た。またその後行ったアイデ

アソンでは、交通弱者に対する交通ネットワーク作りを課題として設定し、岡崎市の例を参考に人流データを分析し既存のバスやタクシーを有効活用することや、マイナンバーと決済手段等様々な情報を結び付けることを解決策として導き出した。全体を通して今までの2日とは視点が異なる業務を体験し、地域情報化も支える通信局の大きな役割を実感できた。

4日目は放送課による多様な放送方法やそれに係る業務の説明と臨時災害放送局の開局・放送体験、有線放送課によるケーブルテレビの現状とその監督業務についての説明、電気通信事業課による業務説明、高校生以下を対象としたインターネット教育の一環であるe-ネットキャラバンの模擬講座の受講、また事例を用いた電気通信事業の届出の要否の検討等を行った。

臨時災害放送局の開局・放送体験では実際に周波数を指定し、マイクを通した自分の声をラジオから聞くという貴重な体験を行った。過去の災害発生時に耳にしたことのある災害FMといった情報提供手段も通信局が支えていることに驚いた。また普段は時間の掛かる周波数調査等を災害発生時には1日でも早く行うことが求められる。それは緊張感のある大変な仕事であるが、達成感があり楽しいと話されていた職員の方々の笑顔が印象に残った。

このインターンシップを通じて、東海総合通信局内の総務課を除くほぼすべての業務について単に説明を受けるだけでなく、許認可の体験や普段滅多に触ることの出来ない機器の使用体験、病院や地方自治体への訪問を経験することができ、非常に濃い1週間を過ごすことが出来た。ほぼ1週間、実際の就業時間に近い時間で活動したことから、通勤の様子も含め体験することができ、将来について真剣に考える契機となった。

さらに少人数であったことから学生同士のコミュニケーションは勿論、職員の方々とも疑問に思った点について質問しやすい環境が整っていた。しかし自分自身を振り返ると、他の学生の方々に比べ、質問する回数が少なかったことが反省点として挙げられる。普段の学生生活から他者の話を単に耳に入れるだけでなく、頭で理解し自分の中に落とし込む習慣を身に着ける必要があると痛感した。

繰り返しにはなるが刺激の多い1週間を過ごすことができ、今まで就職に対して中途半端な気持ちで向き合っていた自分自身を見つめ直す良い機会となった。